

## 郭沫若の用いた比喻

大高 順雄

周知の通り、比喻は伝統的な文体の手法であり、今日では認知言語学の好個の対象となっている。それが郭沫若の文体の特徴の一つをなすことは明らかである。

使用した作品は次の通りである(順不同) : 1 櫻花书简 ; 2 王阳明礼赞 ; 3 女神 ; 4 高漸離 ; 5 武则天 ; 6 少年时代 ; 7 初出夔门 ; 8 北伐途次 ; 9 海濤集 涂家埠 ; 10 文艺之社会的使命 ; 11 论德文化书 ; 12 论国内的评坛及我对于创作上的态度 ; 13 讨论注积運動其他。

比喻は、直喩 simile (肯定 : AはBのようである ; 否定 : AはBのようでない) と間喩 metaphor (肯定 : AはBである ; 否定 : AはBでない) に分けられる。直喩は肯定と否定に分けられる。郭沫若は肯定の直喩 32 例と否定の直喩 1 例を用いた。また、肯定の間喩 27 例、肯定の間喩と肯定の直喩の複合 1 例を用いた。

### I 直喩を語法から分類すれば、次のようになる。

[鉤括弧内の数字は頻度を表す]

1) 一語 :

象 [2]    如 [6]    式 [1]

2) 二語 :

一样 (肯定) [10] ;    一样 (否定) [1]    那样 [1]

譬如 [3]    好象 [3]    真象 [1]

3) 相関 :

象 .... 一样 [2]                      如 ..... 一样 [1]

好象 ... 一样 [1]                      如象 ... 一样 [1]

**N.B.** 郭沫若は「一样」と「如」を頻繁に、ついで譬如と好象を使用し、相関語法を好まなかった。

II 直喩の主体(=の左辺)と直喩の客体(=の右辺)と関係は次のようになる。

(肯定)

1 主体 = 自然現象 [10]

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1.1 精神 = 太空     | 1.2 思想改革 = 是和风细雨 |
| 1.3 浮世 = 漆夜     | 1.4 泪珠 = 流星      |
| 1.5 牌子 = 烟云     | 1.6 名字 = 写在水上的   |
| 1.7 喧騒 = 远潮     | 1.8 他 = 流星       |
| 1.9 我 = 大渡河里面的水 | 1.10 心中 = 溪泉     |

2 主体 = 客体:人工物 [9]

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 2.1 群叶 = 玉片     | 2.2 枝 = 青銅     |
| 2.3 组织 = 器皿     | 2.4 泰国 = 锈了的铁  |
| 2.5 苹果 = 木屑     | 2.6 清闲 = 橡皮带子  |
| 2.7 风 = 刀       | 2.8 明星 = 无数的街灯 |
| 2.9 幼年時代 = 高屋地基 |                |

3 主体 = 客体:動物 [6]

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 3.1 秋草 = 狮子皮   | 3.2 落叶 = 金色蛱蝶 |
| 3.3 心脏 = 鲜红的金鱼 | 3.4 生命力 = 蚂蝗  |
| 3.5 易水 = 龙     | 3.6 連山 = 怪物   |

4 主体 = 客体:天然物 [2]

4.1 雪卢汉 = 白水                      4.2 文芸 = 石子

5 主体 = 客体:人間 [1]

5.1 农家的灯火 = 亲人的眼睛

6 主体 = 客体:植物 [1]

6.1 名字 = 地丁花

(否定)

1 主体 ≠ 客体:天然物 [1]

1.1 人们底歌声 ≠ 泪晶

**N.B.** 客体に自然現象と人工物を用いる場合が最も頻繁であり、動物を用いる場合はそれに次ぎ、人間と植物を用いる場合は稀である。否定は1例のみである。比喩の性質を見ると、苹果 = 木屑 (2.5)、雪卢汉 = 白水 (4.1) には、比喩の同質性が感得される。一方、思想改革=微風 (1.2)と細雨、牌子 = 烟云 (1.5)、我 = 水 (1.9)、風 = 刀 (2.7)、心臟 = 金魚 (3.3)には、比喩の異質性が看取される。これは比喩の意表性を求める手法である。

### Ⅲ 間喩の主体と間喩の客体の関係は次のようになる。

1 主体 ≡ 客体:人工物 [6]

1.1 我 ≡ 火星子

1.2 我 ≡ 铁鞭, 铁锤, 匕首

1.3 我 ≡ 头簪之器

1.4 大雨 ≡ 倾盆 (成句)

1.5 世界 ≡ 大陷坑

1.6 流星 ≡ 灯笼

2 主体 ≡ 客体:人間 [5]

2.1 至誠 ≡ 母亲胸上的奶

2.2 天上的晚江 ≡ 焦沸的心血

2.3 虺蜴 ≡ 心

2.4 铁 ≡ 心

2.5 豺狼 ≡ 性

3 主体 ≡ 客体:自然現象 [5]

3.1 雷 ≡ 霆 (成句)                      3.2 至誠 ≡ 春天的和风, 秋天的明月

3.3 百姓 ≡ 水                              3.4 无涯的枣花 ≡ 香海

3.5 万馬 ≡ 海濤

4 主体 ≡ 客体:動物 [4]

4.1 队伍 ≡ 鸟兽                          4.2 队伍 ≡ 蚂蚁

4.3 嘉定学风 ≡ 马牛                      4.4 天逆不道 ≡ 毒蛇

5 主体 ≡ 客体:天然物 [3]

5.1 艺术与人生 ≡ 晶球的两面              5.2 她 ≡ 花岗岩

5.3 調子 ≡ 铿锵

6 主体 ≡ 客体:食物 [1]

6.1 科学 ≡ 甘乳

7 主体 ≡ 客体:芸術 [1]

7.1 大宇宙的生命 ≡ 音乐

8 主体 ≡ 客体:人生 [1]

8.1 他人之旗鼓 ≡ 自己的保障

9 主体 ≡ 客体:科学符号 [1]

9.1 高兴 ≡ 零度以下, 负号

**N.B.** 最も頻繁な例は客体が人工物、人間、自然現象、動物であり、天然物が続き、食物、芸術、人生、科学符合が最も少ない。

我 ≡ 火星子 (1.1) ≡ 铁鞭, 铁锤, 匕首 (1.2) ≡ 头笄之器 (1.3); 至誠 ≡ 母亲胸上的奶 (2.19) ≡ 春天的和风, 秋天的明月 (3.2); 队伍 ≡ 鸟兽 (4.1) ≡ 蚂蚁 (4.2) におけるように、同一の主体に別の客体を対応させ、艺术与人生 ≡ 晶球的两面 (5.1); 高兴 ≡ 零度以下, 负号 (9.1) におけるように客体に科学性をもたせる。虺蜴 ≡ 心 (2.3); 铁 ≡ 心 (2.4) におけるように、異なる主体を同じ客体で表わす。共通することは、比喩の意表性である。

#### IV 間喩と直喩の複合

- 1 間喩と直喩の主体≡ 自然現象 [1]
  - 1 大雨 ≡ 傾盆 — 倒海翻江, 整个的天都垮塌下来
- 間喩と直喩の共用は表現性に富む手法である。

#### 結語

郭沫若は文学作品にも論文にも好んで喩を用いた。その喩は多様であり、意表性を特徴とすると言える。そこには特にフランス文学において発展していた超現実主義の影響が看取される。これは私の研究の中間発表に過ぎないので、さらに用例を探索することにより、郭沫若の文学手法の解明を目指したい。